

12月定例報告

市長総括説明から

11月28日、平成26年第5回市議会定例会が開会しました。「子どもたちが豊岡で世界と出会う音楽祭」「おんぶの祭典」と「2015年ミラノ国際博覧会」の日本館のメイン展示のシンボルが「コウノトリ」になったことを報告し、当面する市政の諸課題ならびに提出議案の主なものについて説明しました。

安全に安心して暮らせるまち

○土砂災害危険度情報の提供 累加雨量140ミリメートルで土砂災害の危険度が高まる区域に自主避難に役立てる簡易型雨量計を配布しました。累加雨量が140ミリメートルを超えるると危険度が増す区域には、各地域の危険度合いを市ホームページや各行政区への図面配布で周知します。

但馬のとり周産期医療センターの竣工式は、来年12月12日に行われます。

公立豊岡病院の周産期医療センターの竣工式は、来年12月12日に行われます。式後、医療機器等の移設を行い、体制が整った部署から順次供用を開始する予定です。

但馬地域の周産期医療を支えるには、医師をはじめとする医療スタッフの人数が十分とはいえず、充実に努めます。

社会福祉法人の所轄庁権限に係る事務の移譲

法改正で県の所管権限が市に移譲され、経過措置で昨年・本年度は県に事務委託して行いました。来年度からは市が事務を行うため、その関連議案を提出しています。

豊岡健康福祉センターの耐震補強・改修工事

耐震診断で、部分的に耐震補強が必要であることが分かりました。耐震補強工事を行い、利用者の安全確保と建物の長寿命化を図ります。老朽化しているトイレや外壁改修、「ふれあいセンター」移転先の3階部分の間仕切りなどの関連工事も行います。

健康福祉施設の名称変更

「健康福祉施設は健康福祉部事務所等に使用しています。

しかし、市内には他に、県の「豊岡健康福祉事務所」と市の「豊岡健康福祉センター」があり、分かりにくい状況です。このため、来年4月1日から名称を「豊岡市役所立野庁舎」と改めます。

民間老人福祉施設助成事業

本事業は、民間事業者の老人福祉施設整備費等を国が市を経由して補助する制度です。グッドライフ㈱から、小規模多機能型居宅介護事業所の整備の申し出がありました。県補助金の内定を受け、助成の予算を提出しています。

豊岡斎場の改修

老朽化のため、火葬炉や機械設備等の改修工事を平成28・29年度に行う予定です。

人と自然が共生するまち

環境負荷が少ない暮らし方を提案するために整備した、豊岡市エコハウスの管理運営を、民間委託することとし、その事業者を公募します。

竹貫大規模太陽光発電事業

新型太陽光パネル増産のめどが立ち、㈱カネカとの業務委託契約締結を考えています。

発電効率が大幅に向上した新型パネルの導入で、当初の事業予定面積の3分の1に当たる4750平方メートルが不要となりました。これを利用し、新たに第2期、361・62kW規模の発電事業を進め、1期と2期でメガソーラー発電所を作りたいと考えています。

持続可能な「力」を高めるまち

第2期を有利な売電価格で展開するため、債務負担行為の補正予算を提出しています。なお、第2期事業が新規受付扱いで認定されない場合は整備を断念します。

海外戦略の推進

世界最大規模の国際旅行博WTM(ロンドン)には昨年に続いて、フランス有数の旅行博SITV(コルマル)には今年初めて出展しました。来訪した旅行関係者との情報交換から、温泉以外の魅力を含めた広域の周遊ルートや外国人観光客の受け入れ体制の整備が必要なが再確認できました。

今後は①京阪神を起点とした外国人向けの但馬への旅行ルートの造成②豊岡の海外向けホームページの充実③国内のインバウンド専門旅行会社との連携④日本政府観光局海外事務所や県パリ事務所、在欧日本旅行法人などとの連携⑤市内の受け入れ体制整備などで、本市への外国人観光客の誘客促進を図ります。

栽培チャレンジ事業の実施

コウノトリ育む農法の無農薬栽培を一層推進するため、農機具メーカー・みのる産業㈱と協定を締結し、本年度から3カ年、実証田で抑草の省力化と収量の増加を目指した栽培実証を行っています。

今年の実証田では、雑草が少なく、収穫量や食味値も大変良好という効果が見られ、他の農家からも無農薬栽培に挑戦したいとの要望が多く寄せられています。

そこで、来年度から3年間、市が同社に委託して、市内農家を対象に、試行栽培に必要な田植機や除草機の貸し出し、運搬や技術指導を行う「コウノトリ育む農法無農薬栽培チャレンジ事業」を実施し、作付面積の拡大を図ります。

○栃江橋橋梁整備事業

栃江橋の老朽化に伴う改築事業は、本年度左岸下部工築造工事を国に委託する予定でしたが、堤防開削に伴う仮設工法を更に安全な工法に追加修正するよう国土交通省から指示を受けました。これに伴い、本年度の国との受委託契約が困難となったため、工事を来年度に延期します。

○JR城崎温泉駅

公衆トイレの建築

JR城崎温泉駅のトイレは、老朽化が著しく、改築が行われることになりました。

JR西日本は、駅構内のトイレのみを整備する方針で、この改築に合わせて駅構外部分を市が整備することについて、打診がありました。市は、鉄道利用者や観光客の利便性と城崎温泉のイメージアップのため、景観に配慮した公衆トイレを駅前広場側に建築したいと考えています。

この公衆トイレの完成に合わせて、市管理の「さとの湯」併設の観光トイレは、倉庫等への改修を考えています。

■未来を拓く人を育むまち

○放課後児童クラブ

放課後児童クラブの設置基準

放課後児童クラブの設置基準の利用見込者はおおむね10人でしたが、県が4～9人の小規模児童クラブの運営費補助制度を設けたので、未開設の竹野南小学校校区や八代小学校区、清滝小学校校区と休所中の高橋小学校校区の放課後児童クラブを開設します。

○竹野中学校と森本中学校の統合

来年4月の統合に向けて、豊岡市立竹野・森本中学校統合準備委員会を設置し、協議・調整を進めてきました。9月に一定の調整を終えたことから、統合に係る関係条例の改正案を提出しています。

○屋内運動場等の天井等

落下防止対策事業
文部科学省から、公立学校施設の構造体の耐震化や屋内運動場等の吊り天井の落下防止について、早急に対策を講じるよう要請がありました。

これを受け、来年度から3年間かけて、吊り天井の撤去およびLED照明設置などの落下防止対策工事を計画的に進めます。来年度は、資母・竹野南・田鶴野小学校の屋内運動場工事を予定しています。

■人生を楽しむ

お互いを支え合うまち

○豊岡市立美術館・伊藤清永記念館・収蔵作品の充実

8月に、伊藤画伯の作品を所有する個人から「少女」という作品を廉価で市に譲りたいという申し出がありました。市は、収蔵する伊藤画伯の作品に、展示に適した大きさのものや裸婦以外のものが少ないこと、対象作品の評価が高く、伊藤画伯の画業の変遷をたどる資料としても価値があることなどから、同作品を購入したいと考えています。購入に当たっては、伊藤家からの寄付金で造成した伊藤清永美術館管理基金を活用することとし、今議会に関連の補正予算を提出しています。

○円山川運動公園の移転整備

現在、下鶴井への移転に向けて、国と具体的な公共補償等の協議を行うとともに、用地取得や詳細設計の準備を進めています。

事業予定地は、農業振興地域農用地区域に指定されているため、除外する必要があり、土地収用法に基づく事業認定を受ける手法を採りました。

これは、手続きが迅速で、地権者の皆様に租税特別措置法による課税特例のメリットがあるためで、強制的に収用を行うものではありません。

過日、事業認定申請、申請書の公告・縦覧が終了しました。県の審査後、市の関係手続きを行います。

■市政の運営

○新しい地域コミュニティのあり方方針案

地域コミュニティ崩壊の危機に対応するため、検討委員会を設置し、10月に「新しい地域コミュニティのあり方方針案」の答申を受け、11月に地域説明会やパブリックコメントを実施しました。

地域説明会では、新しい地域コミュニティ組織と区長会との関係や、地区が活動するための財源や人材の考え方などについて質問や意見をいただきました。

今後、市の方針をまとめ、来年度からこの方針に基づき、地域の皆様と行政が役割を分担し、協働して新しい地域運営の仕組みを作りあげます。

○債権の管理に関する条例

制定

債権には、強制徴収ができる市税・公債権や強制徴収できない公債権、契約行為等の私法上の原因に基づく私債権があります。その滞納総額は、平成25年度末の全会計で17億1千万円です。

統一的な対応や合理的・効率的な債権管理を行うなど、より適切に債権管理するため、今議会に債権の管理に関する条例案を提出しています。

○新市誕生10周年記念事業

来年度、新市誕生10周年を迎えるに当たり、市民の皆様によるイベント等を募集し、14件の応募がありました。

また、来年4月18日の菓子祭前日祭に合わせ、市役所前市民広場で記念式典を開催する予定です。当日、市道大開一日市線のアイティから国道178号交差点の間に、旧市町6地域の団体が集い、各地域の多彩な特色を生かした活動や伝統芸能による「市民みんなのパレード」を行い、市民の皆様と共に祝いしたいと考えています。このパレードに花を添えるため、デザインキャラクターの参加も計画しています。

※市ホームページに「市長総括説明」の全文を掲載しています。